

パイナップルの生食用有望系統の特性

出花幸之介・比嘉ひろの・池宮秀和・井上裕嗣 (沖縄県農業試験場名護支場)

Konosuke DEGI, Hirono HIGA, Hidekazu IKEMIYA and Hirotsugu INOUE :  
Characters of Promising Clones of Pineapple for Fresh Fruit Market

パイナップル産業の再興をはかるため、従来の加工用果実主体の生産から、収益性の高い生食用果実生産への転換が進められている。現在沖縄県内で主に栽培されているのはN67-10, ボゴール, クリームパインの3種である。栽培面積の約80%を占めるN67-10は果実が大きく加工用には適しているが、ブリックスが低いため生食用としては問題がある。ボゴールは高品質だが、葉緑に鋭利な棘が多く農作業に支障をきたす。また、クリームパインは裂果が多いため栽培が難しい。そこで栽培が容易で良食味な生食用品種の育成を目的とした育種事業が1989年から開始され、いくつかの優良系統が選抜されてきた。本報では生食用として有望な4系統の特性について報告する。

1. 材料および方法

1989年に交配した実生を植え付け、その後栄養系統選抜を続けてきた。1994年10月に4次選抜試験として各系統15~100株が定植された。1996年8月~9月に果皮色が1/4~3/4黄変着色した時点で収穫し、調査を行った。

2. 結果および考察

1) 93-22は収穫期が7月下旬でボゴールとほぼ同等である。ブリックス18.3%, 酸度0.45%で品質は高く, 果実重はボゴールの約2倍の大きさである。1-79は収穫期が8月中旬でN67-10より2週間早く, ブリックスは18.2%で前者より4%ほど高い。97-30は収穫期が8月下旬でN67-10より5日早く, ブリックス17.2%, 酸度0.58%で品質は高い。93-212は収穫期が9月上旬で, N67-10とクリームパインの間である。ブリックス16.5%, 酸度0.48%で両者より品質は高い(第1表)。

2) いずれの系統においても, 茎葉重と果実重の間には $r = 0.65^{**} \sim 0.90^{**}$ の高い正の相関があった。茎葉重に対し最も大きな果実をつけるのはN67-10で, 最も小さなものはボゴールであり, 選抜系統は両者の間に分布した。茎葉重と果実重の関係から, N67-10のように茎葉重に比べて果実重の大きい系統が望ましい。しかし, 茎葉重が比較的小さいのにも関わらず着果する(基本栄養成長性が小さい)系統は, 密植栽培が可能であると考えられる(第1図)。

3) いずれの系統でも収穫期が早いほどブリックスが高く, また系統全体を見ても7月10日~10月10日の収穫期間において, 早い時期ほどブリックスが高い傾向にあった。93-212のような晩熟性で高ブリックスの系統を選抜して花芽誘導処理による促成栽培を行うことで,

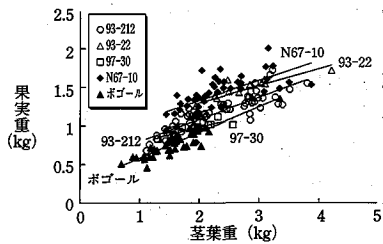
同一品種の長期出荷が可能になると考えられる(第2図)。

4) 93-22など選抜された4系統の裔芽重や吸芽重は, N67-10よりも小さい傾向があった。また93-212の吸芽数は4本で多すぎると思われる(第2表)。

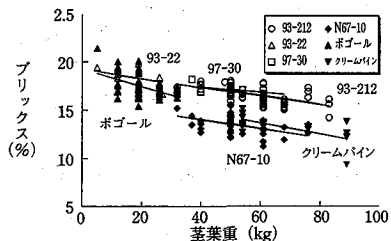
以上の結果から, 今回選抜された4系統はいずれも高品質であったが, N67-10に比べると茎葉重に対する果実重がやや小さく, 栄養芽もやや小さい。したがって, 系統適応性検定試験においてこれらの系統の栽培性を検討するとともに, 今後は初期選抜の段階から栄養芽について積極的に選抜する必要がある。

第1表 パイナップル生食用有望系統の果実特性

| 系統名     | 収穫日  | 果実重    | ブリックス | 酸度    | 糖酸比  |
|---------|------|--------|-------|-------|------|
| 93-22   | 7/28 | 1.45kg | 18.3% | 0.45% | 41.6 |
| 1-79    | 8/18 | 1.17   | 18.2  | 0.79  | 23.7 |
| 97-30   | 8/26 | 0.98   | 17.2  | 0.58  | 30.0 |
| 93-212  | 9/7  | 1.16   | 16.5  | 0.48  | 35.6 |
| ボゴール    | 7/30 | 0.77   | 17.5  | 0.56  | 31.6 |
| N67-10  | 9/1  | 1.39   | 13.5  | 0.66  | 20.8 |
| クリームパイン | 9/15 | 1.23   | 13.3  | 0.63  | 23.0 |



第1図 茎葉重と果実重の関係



第2図 収穫日とブリックスの関係

第2表 パイナップル生食用有望系統の栄養芽の特性

| 系統名     | 冠芽               | 裔芽              | 吸芽               |
|---------|------------------|-----------------|------------------|
| 93-22   | 1.0本 110.0g [21] | 0.3本 83.0g [17] | 0.6本 131.0g [77] |
| 1-79    | 1.0 261.0 [12]   | 1.0 250.0 [74]  | 1.0 299.0 [42]   |
| 97-30   | 1.0 150.0 [9]    | 1.8 85.4 [31]   | 1.9 378.0 [40]   |
| 93-212  | 1.0 201.0 [22]   | 2.7 57.2 [51]   | 4.0 265.0 [36]   |
| ボゴール    | 1.0 118.0 [22]   | 2.0 41.2 [44]   | 2.1 204.0 [37]   |
| N67-10  | 1.0 247.0 [14]   | 1.8 249.0 [32]  | 1.0 458.0 [33]   |
| クリームパイン | 1.0 201.0 [19]   | 2.7             | 0.9              |

注) [ ] : 変動係数